

令和元年度第2回帯広美術館協議会委員意見等一覧

項目	委員意見・要望等	事務局
1 帯広美術館の活性化について	<p>教育普及事業について、学校の美術教員には非常勤職員も多くおり、中学校で美術を担当している非常勤の知人は学校から情報が伝わらないと言っていた。自主的に参加希望の教員もいると思われるのでマスコミを通じて教員研修プログラムを周知する方法もあるのではないかと考えているのですが。</p> <p>令和元年度の観覧者数が開館記録を上まわる14万人を超えた事は地道に活動を続けた事に加え、親子で楽しめる展覧会を2年続けた効果が大きいと思われる。「チームラボ」のようなデジタル、未来につながるような企画を是非来年度はお願いしたい。中・高・大学生を対象としたインターンシップ事業も内容を厚くして、将来への「種まき」を望みたい。</p> <p>経済界とのつながりを強化し活動の幅を広げればどうかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの活用が弱い。帯広美術館だけでなく、道立美術館として、ホームページのデザイン、コンテンツを根本的に見直す必要があるのではないかと？残念ながら、ここ数年、私が教える博物館学の学生の間では、都道府県立美術館の中で北海道評価が最低クラスで推移している。早急な改善を望みたい。 ・コレクション情報のデータベースなど、デジタル発信が進むと良い。 ・現状では学芸員の顔がみえない。もっと学芸員の個々の特性を前面に出した方が良い。どういう分野に強い学芸員がいて、どのような取り組みをしているのかについての情報発信があった方が、館を身近に、また専門館として感じ、活性化する。 <p>近年は美術館へ来たことがない人でも興味をひく展覧会があるので、来場者の増加につながっています。特にチーム・ラボの展覧会では親子連れや若者が大勢来場したことは今後の美術館の活性化につながっていくと思います。</p> <p>美術館は、優れた美術・芸術作品を鑑賞して精神的充実を図り、人生を豊かにしてくれる文化施設なので、年代を問わず多くの方々が来館して作品を鑑賞して頂くことが、活性化と言えるのではないかと考えている。その為には、敷居を低くして、散歩の途中にでも気軽に立ち寄ることができるのが望ましいと思う。</p> <p>過日、高校生の入賞作品の展覧会が、市民ギャラリーで行われたが、美術館でもそのような企画はできないだろうか。</p>	<p>これまで高等学校長協会十勝支部や帯広市中学校長会等の関係団体と連携してきましたが、今後も引き続き、マスコミを活用するなど、より効果的な周知に努めて参ります。</p> <p>今後も引き続き、親子や年代を問わずに楽しめる展覧会を企画して参ります。</p> <p>また、インターンシップにおいては、引き続き積極的に受け入れを行うとともに、魅力ある内容に努めて参ります。</p> <p>美術館振興会と連携し、検討して参ります。</p> <p>道教委では令和2年度に全道立美術館ホームページのリニューアルを予定しており、刷新の際には、学芸員の研究成果など、より魅力的な内容となるようコンテンツの充実に努めて参ります。</p> <p>今後も引き続き、親子や年代を問わずに楽しめる展覧会を企画して参ります。</p> <p>今年度のアートギャラリー北海道事業「大樹町酪農アーティスト展」では、若手作家を紹介する場としてロビー展示を開催しました。今後も十勝の美術愛好家の作品展示の場として、更に地域の方に気軽に来館いただけるよう、ロビーなど展示室以外の無料スペースを活用し、活</p>

	又、十勝には美術愛好家のサークルが多く、それぞれ持ち味を生かした展覧会が各ギャラリーで開かれているが、それらを一堂に会して鑑賞の場を設けることも個性ある展示となり、活性化の一助となるのではないかと思う。	性化に努めて参ります。
2 道東地域の文化振興の発展について	十勝を中心とした道東地域は芸術活動が盛んな歴史的土壌があり、文化芸術を愛する人が多いと考えられる。 リピーターを増やす為にも「年間パスポート」を設けてみてはいかがでしょうか？管内エリアに拡げて、他館との協働も良いかと思えます。	年間パスポートの導入についてはこれまでも検討してきましたが、特別展については展覧会ごとに観覧料を設定することから、導入が困難な状況です。 常設展については、ニーズや他館の状況を注視して参ります。
	娯楽に対する要望が強い地域なのでニーズを汲み取ることで文化への関心が高まり、道東地域の文化振興の底上げにつながると思えます。	引き続き地域のニーズの把握に努め、事業計画を策定して参ります。
	・道東にはどのような作家がいて、どのような作品が発表されているのか？また、美術館とどのように関わりあっているのか？の検索拠点、情報発信拠点になって欲しい。そのためには、釧路芸術館や道東管内の各美術館と連携し、道東の作品や作家を横断的に検索できるデータベースのようなツールの構築が必要ではないか。 ・個人立美術館や作家個人のギャラリーなど、道東には中小のアートが存在する。それらと連携し、道東美術のいまを伝える活動が必要。コレクション・ギャラリーを活用して、そうした中小の作家作品を順番に紹介する場の構築、各市町村に学芸員が出向いていって、地元作家を交えて対談や巡回講座のような事を実施し、結びつきを深める活動が、振興につながるのではないか。	・北海道（環生部）において、令和2年度からデジタル北海道アートミュージアム事業により、各館の主要な所蔵作品がデータベース化されるため、今後活用して参ります。 ・地域や団体からの要請により、出前講座を実施しており、十勝管内の学校では継続的に申し込みがある一方、学校以外の団体の認知度が低いことから、今後は効果的な周知に努めて参ります。
	先回の網走市立美術館の作品は、普段鑑賞できない作品が多く、北の大地の厳しさがよく伝わり、とても良かったと思う。館長さんの講義も楽しく拝聴し、学ぶことが多くあった。このような道東地域での作品や人の交流は、今後も期待している。可能であれば、それぞれの地域住民の為の「道東の美術館めぐり」のような企画があっても良いと思う。	今後も引き続き、アートギャラリー北海道事業として、ネットワークを活用し連携館の所蔵品の展示を通して、道東地域の文化振興の発展に努めて参ります。
3 美術館の役割に期待すること	大樹町酪農アーティスト展は良かったと思う。展示する作家に基準はあると思うが、帯広市内のギャラリーで様々な展示が開催されていることもあり、これらの方たちから学芸員さん達の目で選ばれた方の展示する場所が館内に設けられれば励みになると思うのですが・・・展示場所は喫茶コーナーでも良いと思います。	喫茶コーナーでの展示は作品の維持管理上、困難ですが、ロビーなど展示室以外の無料スペースの活用について検討して参ります。

	<p>「豊かな時間」を求める人に、美しい、心を打つ本物の美術品（絵画・彫刻・写真等々）は本物だけが持つ“力”がありますので、直に届けて下さい。デジタルやAIではない人間が創る本物を体験する機会を作ることが出来るのは美術館だけです。入口は広く、奥は深く！</p>	<p>今後も引き続き、優れた美術作品を紹介する魅力ある展覧会を企画して参ります。</p>
	<p>これまで取り組まれているようにファミリー層向けのイベントへのニーズがあると思いますが、2年度はややそれが弱いように思えます。</p>	<p>特別展・常設展の開催に合わせ、親子や年代を問わずに楽しめる関連事業などを企画して参ります。</p>
	<p>・近年はパッケージ化された大型企画展が多いように思うが、自館のコレクションや道東の作家・作品群をさまざまな角度から評価・紹介する場としての企画展がもっと開催されて良い。そうした面で、今回の企画展「居串佳一とオホーツクの画家たち」は、まさしく道立美術館らしい企画展で良かったと思う。こうした企画展では、学芸員の作品論がもっと前面に出るような場が欲しい。</p> <p>・さまざまな美術館活動の根元には、学芸員の調査研究が必要不可欠なはず。そうした調査研究活動の成果はもちろんだが、いま実際に学芸員がどのような調査研究に取り組んでいるのか？の情報発信も必要。どういった学芸員が帯広美術館にはいて、どのような活動に取り組んでいるのか？を、美術館内やホームページできちんと情報発信した方が良い。また、研究成果の論文化と、その論文の成果を紹介する展示や博物館講座が毎年ほしいところである。</p>	<p>・館独自の特別展の企画は、学芸員の研究成果の発表の場としても大変重要なものと認識しており、今後も引き続き企画して参ります。</p> <p>・今後は学芸員の研究成果が発表できるよう、特別展の開催や関連講座の実施をはじめ、展覧会の効果的な開催や実施形態について検討して参ります。</p>
	<p>中学・高校生のさまざまな教育活動に、美術館を利用していることは、とても良いことだと思う。2月に、オホーツクの美術の講座で「対話型鑑賞」という体験をした。1つ1つの作品について参加者が感じたこと、作品から読み取れることなどを各々発言し、じっくりと深く作品を鑑賞するという手法で、貴重な体験をさせて頂いた。既に行われているかも知れないが、このような取組も中学生や高校生の活動に加え、美術作品を観る目を養い、深く考える機会を設けることは有意義であり美術に興味を持つきっかけにもなると思う。</p>	<p>今後も引き続き、魅力ある教育普及事業を企画して参ります。</p>
<p>4 今後の取組（要望）</p>	<p>しらかばの会の高齢化が気になると会員から耳にしました。ボランティアが居なければ美術館の運営自体にも支障がでると思います。美術館も協力して、市内のギャラリーなどにボランティア募集案内を置かせていただくなどのキャンペーンを実施しては？ボランティアの活動内容を説明する機会を設けて、増員の実績を作っているボランティア</p>	<p>協議会で意見があったことを情報提供し、帯広美術館としても出来る限り協力して参ります。</p>

	<p>団体もあります。</p> <p>親子で楽しめる企画を！ 彫刻など、なかなか近くで手をふれて観ることが出来ないの、木彫、石、土、金属を問わずに「立体」の持つ迫力を楽しみたいです。 来館者アンケート採取にQRコードを取り入れてはいかがでしょうか。簡単に答えられ、集計もかんたんに出来るようになりました。</p>	<p>今後も引き続き、親子や年代を問わずに楽しめる展覧会を企画して参ります。 また、アンケートの実施形態については、他機関などの状況を参照するなど、今後検討して参ります。</p>
	<p>氷まつりなど周辺で開催されるイベントとの連動企画があればどうかと思います。 (例) こおり祭りの一画に美術館 PR ブースを設けるなど</p>	<p>これまで氷まつり期間中、関連事業として緑ヶ丘公園施設を巡るスタンプラリーの実施や氷まつり協賛事業のチラシを作成し、美術館のPR活動に取り組んできたことから、今後も引き続き、関係機関と連携して参ります。</p>
	<p>・図書コーナーを充実していくために、道立美術館への専任司書の配置と、アートライブラリーの設置に向けた取り組みを実施して欲しい。関東圏では美術図書館司書連絡会が設置され、美術図書館横断検索などのコンテンツが整備されて10年以上になる。 https://alc.opac.jp/search/all/ ・「チーム・ラボ」展は、確かにユニークな取り組みの企画展ではあったが、個人的には、作品の質や主催者が強調する教育効果について、大いに疑問の残る展示だった。おそらく評価のわかれるところだと思うが、むしろそれで良く、だからこそ展覧会の期間中や終了後に、展示を批評する場（それぞれにさまざまな批評を知る場）があると良い。美術は静かに眺めているだけでなく、観覧後の各人の感想や批評を出し合うことで、地域の文化度や文化活動の質を高めていく場でもあるのではないか。</p>	<p>・専任司書の配置は制度上困難であり、アートライブラリーの設置は、その必要性や予算の関係等により困難であると考えますが、既存の図書コーナーの利活用を検討し、図書の充実を図って参ります。 ・事業の評価や効果については、地域から自発的に生じて盛り上がるのが望ましいと考えますが、観覧者の意見等については、来館者アンケートを実施し、今後も引き続き、把握に努めて参ります。</p>
	<p>展覧会の動画での告知も検討してほしいです。(もうすでに実施しているかもしれませんが)</p>	<p>令和2年第1回展覧会告知を道庁のインターネット放送局「Hokkai・Do・画」に掲載予定。</p>
	<p>「酪農アーティスト」の企画は、十勝に相応しいものであり、今後も続けていって欲しいと思う。将来、彼らが「特別展」で活躍されることを期待している。</p>	<p>今後も引き続き、アートギャラリー北海道事業として、若手作家の活動を紹介する場を提供して参ります。</p>
上記以外(自由記載)	<p>昨年は「北斎展」で招待券を全道社会教育研究大会にご配布いただきましてありがとうございました。いろんな方から「観て来ました」と喜んでいただきました。全道規模ではありませんが、管内やブロックの研修会の折にでもパンフレットを振興局の担当者</p>	<p>今後も引き続き、各種会議や研修会等の情報収集に努め、美術館のPR活動を行って参ります。</p>

	<p>に言って、資料を一緒に渡すことも可能と思います。 きれいなパンフレットは来館のきっかけになると思われます。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館の学芸員は、科学研究費補助金（科研費）への申請ができる研究者番号が付与されているが、道立美術館の学芸員も同じように科研費での申請ができるようになっていないのか？もし申請ができるのであれば、協議会の美術館評価に、科研費の申請・採択情報も加えた方がよい。 ・配置されている学芸員の、論文や図録執筆、展覧会担当実績などがわかるような資料を加えて欲しい。美術館も博物館も、「館」という施設を活かすのは働いている個々の学芸員という「人」であり、館活動を評価するにあたっては、個々の学芸員の学芸活動の質をみる必要がある。 ・さまざまな館種の学芸員が集まり、互いに展示を評価・議論しあう場があって良いのではないかと。（関東・関西で実施されている、合同の展示批評会、地域作品・資料の勉強会の実施など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の申請については、研究体制のあり方も含めて慎重に検討する必要があると考えますが、評価項目に加えることは「道立美術館評価実施要綱」第6の規定により困難です。 ・当館の使命と役割を着実に進めていく中で、学芸員の研究成果等の公表について、検討して参ります。 ・異業種館での意見交換会は必要と認識していますが、地域の博物館団体や文化団体等が中心となって進められることが望ましいと考えます。
	<p>コロナウイルス感染防止のために公共施設が閉鎖されているのは残念です。終息の見通しがたち、令和2年度の展覧会計画が順調に行われるよう祈るばかりです。</p>	<p>現段階では見通しが立たない状況ですが、令和2年度の展覧会開催に向けて、着実に準備を進めて参ります。</p>
	<p>「ミュージアム・シアター」は、他では鑑賞することができない内容のものが取り上げられ、美術のみならず他国の文化についても学ぶことが多く、興味深く楽しませて頂いている。この貴重な映像をできるだけ多くの方々に鑑賞して頂けるよう更にPRに努めて頂きたいと思う。</p> <p>ただ、開始の時だけでも、一言挨拶があると足を運んで下さった方々がより美術館に親しみを持って頂けると思うがいかがでしょうか。</p>	<p>今後も引き続き、魅力的な内容を提供するとともに、事業のより効果的な運営や周知に努めて参ります。</p>